

法遍寺 から大切な 皆様へ

2020年9月1日

日蓮正宗 年間方針

御命題達成の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

①勤行・唱題で歓喜の実践

境涯開く御題目を
正しい姿勢で実践

②異体同心の折伏で

広布へ前進

僧俗和合

講中一結

③御講と登山の推進で

人材育成

罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2020年8月15日の盃蘭盆会法要の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日蓮上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

大聖人は「行学の二道に励みなさい。行学が絶えればそこに仏法はない。自分も行かない、人にも教えなさい。行学は信心から起きてくる。力があれば一文一句でも(仏法を)語っていきなさい(諸法実相抄 御書668頁趣意)と仰せです。世間の諺に「言うは易く、行うは難し」と申しますが、当聖訓を拝するたび諺の重みをひしひしと実感します。妙法を信じるということは、心で信じ、身体で行ない、口で唱えることに尽きます。「口だけ信心」に陥っていないか、わが身を見つめることが、自らを成長させるのです。化他の行動を興すことが障魔を打ち破ります。折伏は身口意の三業にわたる尊い化他行です。今こそ各個の成仏と広宣流布への情熱を燃やす時です。下を向かず妙法広布に立ち上がりましょう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ)

創価学会が宗門から破門になった一連の問題を正しく認識するためには、ここに至るまでの過去十数年の経緯を知らなければなりません。十数年前には学会の、いわゆる「昭和52年路線」という教義上の逸脱という大問題があり、その目的は宗門を創価学会に従属させる策謀に基づくものでした。当時、これに対して一部の僧侶が創価学会の誤りを糾そうと立ち上がり、昭和53年のいわゆる「6. 30」「11. 7」という池田氏の謝罪を含めた会内の是正がなされ、これに対する総本山第66世日蓮上人の御指南をもって問題の収束がなされたのです。そして、池田氏は責任をとって昭和54年4月24日に会長を勇退し、続く26日に法華講総講頭を辞任しました。正しい認識を持って頂くため、その後の経緯を次号に続けます。

③ 宗教は迷信だと思ふ人へ

おっしゃる通り、現代の宗教界には迷信が横行しています。迷信とは道理に合わないことを信ずることです。西方彼方の浄土に阿弥陀が住むとか、死ねば天国に行けるとか、この世は神が作ったなど。そして、ここに係わった分、迷信相当の結果が表われます。これを現証といいます。真実の宗教とは何か。それは因果の法則にかなない、普遍妥当性を持っていることであり、生命の実体を説くものです。生命の実体は厳然たる因果の法則により存在します。この世の悩みも苦しみも、真の仏法が説く生命観により、はじめて根本原因がつかめるのです。「文証・理証・現証」を説き示す最高の教えが日蓮大聖人の仏法です。すべての宗教は迷信なり、と断定するのは早計です。お待ちしております。